



学校だより

11月号

横浜市立大道小学校
令和2年10月30日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索

校長 加藤 和之

たきび

11月を迎え、各地から紅葉の便りが聞かれます。校舎の周りの木々も葉を落とし始め、すっかり「秋色」になってきました。

先日、コロナ禍のため中止していた「音楽朝会」を再開しました。今までは体育館で行っていましたが、「密」になることを避けるため、校庭で行ってみることにしました。前の道路を行き交う車の音などが交じるため、決してよい環境ではありませんでしたが、そこは「大道っ子」、マスク越しではありますが、元気な声を響かせていました。

さて、そこで歌った「今月の歌」の一つが「たきび」です。

かきねの かきねの まがりかど
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたろうか」「あたろうよ」
きたかぜびいふう ふいている

子どもの頃、何となく覚えた「たきび」の歌ですが、本当に久しぶりに聞いたような気がします。「音楽朝会」の指導をした先生は、3番の歌詞にあるような「木枯らし」にふれました。「木枯らしが吹き始めるこの季節、寒さに負けないよう元気に明るい気持ちで歌えるといいですね。」と子どもたちに語りかけました。それに応えるように歌う子どもたちの声を聴いていると、「校庭でこの歌が歌えてよかったな。」と思いました。それは、校庭だとこの歌に流れるような「空気」を感じながら歌えるからです。

最近では、街で「たきび」を見かけることがありません。環境や安全への配慮や、ゴミ処理の仕方の変化などから、日常生活から「たきび」が消えました。私が子どもの頃は、よく父親が「たきび」で落ち葉やごみなどを燃やしていたのを思い出します。私も面白がっていろいろな物を「たきび」に入れ、怒られたものです。その時に、火の暖かさとともに感じた秋の冷たい空気や風、火や煙の臭いを今でも覚えています。このように「季節」を体全体で感じるような日常の体験が、どんどん少なくなっているのではないのでしょうか。そんな中でも、大道小の地域には昔から大切にされてきたものが残っていますし、それを守ろうとする方々がいらっしゃいます。「たきび」の歌が「大道っ子」のイメージに合うように感じるのは、子どもたちを育む「風土」のせいかもしれません。

今はマスクが外せない生活が続いていますが、いつの日か思う存分「空気」を感じ、子どもたちの感覚すべてを使った学びや活動ができるようになってほしいと願っています。

先日の「大道ふれあい運動会」へのご参観、ありがとうございました。また、地域の皆様には実情をご理解いただき、心より感謝申し上げます。お陰様で、子どもたちの頑張りが随所に光り、成長した姿がたくさん見られた運動会になりました。